

「リウマチ手記」匿名希望 45歳

2014年8月1日

2012年初めに症状が出始めてから2014年7月現在までの経過を記したいと思います。

2年前の冬から春に季節が移るころ、朝の目覚めのときに左手人差し指に腫れと痛みが出るようになりました。午前中は動かすことも曲げることも出来ない程でしたが、お昼を過ぎると腫れも痛みも治まる、というような症状が1～2ヶ月ほど続きました。

「リウマチかもしれないから検査に行った方がいいんじゃない？」と知人に勧められて、5月に市内の病院のリウマチ科を受診し血液検査をしました。先生は「症状はリウマチと似ているが検査の数値は正常内なので、リウマチとはいえません。しばらく様子をみましょう。もっと腫れと痛みが出たらまた来てください。」とおっしゃいました。

リウマチじゃなくて良かったと思いながらも何か違うと思いつつ数日過ごし、頭によぎったのが、リウマチ＝松本医院でした。というのも、現在11歳の姪が赤ちゃんの時にひどいアトピーで松本医院に何度も付き添って行ったことがあり、医院の入り口、待合室で見たリウマチ・アトピーと書かれていた大きな赤い字を思い出したのです。すぐにホームページをチェックしリウマチの先生の理論と手記を読みました。そして4日後の5月11日主人に連れられ来院しました。松本先生は「リウマチでも大丈夫。治るから。ステロイド入れる前に来て良かったな。」と言って下さりその日から漢方の煎じ薬を飲み始めました。1週間後血液検査の結果を聞くために電話をしたら、「ヘルペスの数値が高い。リウマチやな。免疫を上げて。治らない病気はない。あなたが治すんや。」と先生のエネルギッシュなお声。はっきりとリウマチだと言われたけれど、先生の力強いお言葉のお陰で恐怖心はありませんでした。でも日増しに朝の手の強張りはどんどんひどくなり、両膝もぎしぎし痛み歩行が辛くなってきました。

時を同じくして、主人が肝臓を悪くして緊急入院をすることになり、主人の病院に通う毎日が始まりました。一人娘は小学1年生で登下校時は家からバス停までの15分を徒歩で送迎し、私の1日の運動量はぐんと増加しました。私がしっかりしなきゃと自分の体調のしんどさに向き合うこともなく忙しく過ごす日々が2ヶ月ほど続きました。漢方は2週間毎に送っていただいていたのですが、初夏になるころには左手の腫れと痛みもなくなっていたので、いつのまにか漢方を飲まなくなりそのまま来院することもしなくなりました。当然、後に松本先生にお叱りを受けるのですが…。

私は10代の頃から、偏頭痛、摂食障害等々常に不定愁訴を抱えており、36歳で娘を出産した後は起き上がれない状態がしばらく続きました。鍼灸や様々な民間療法を受け、市販の鎮痛剤、風邪薬、便秘薬も常用し、症状を抑えながら日常生活を送っていました。でもこの年の夏はあまり不快症状も無く過ごせて、松本先生の漢方のお陰だと喜んでいました。9月に入ると朝起きるときに両手に腫れが出て身体が重たくて起き上がるのがしんどい日が多くなりました。でも長年の不定愁訴から痛みにも鈍感になっていたことと、元来の我慢強い性格から、何とか日常生活を送っていました。家族からは一度病院に行く様にと言われていましたが、体調不良はいつものことだと伸ばし伸ばしにしていました。そして12月中旬に、5月にリウマチの検査を勧めてくれた知人（姉の友人）が私の症状を聞いて「絶対リウマチだと思うからと病院に連れて行ってあげて。」と姉に連絡してくれて、姉が病院の予約を取って、次の日に半ば強引に連れて行かれたのです。膠原病科の良い先生がおられるという病院でした。そこで血液検査、CT、MRIをして1週間後リウマチと診断されました。先生は「炎症の値（CRP 8.3—基準値0.30以下）が高いし、関節の変形が始まらないうちに今すぐ投薬治療を開始しましょう。」とおっしゃいましたが、最終診断が出るまでの間、主人と姉と一緒にどんな治療を選択するかを話し合いました。西洋医学の薬のこと、漢方薬、鍼灸、民間療法等を調べ、やはり行き着いたのは松本先生でした。

12月下旬に松本医院へ5月以来の来院。夏に症状が軽減し勝手に治療をやめてしまった事をもものすごく叱られました。松本先生は私の浅はかさを指摘し、リウマチは私の心が引き起こしていること、治すのは私自身の免疫なのだとお話くださいました。年末になる頃には症状は坂道を転がるようにひどくなっていました。2013年に入ると、痛みは全身に広がり両手は腫れてベッドに横になるときも主人の手を借りてゆっくり体を横たえ、寝返りが打てず少しでも体を動かすと激痛が走りました。痛みで眠れず天井を見つめながら涙を流す夜が続きました。今まで当たり前に出来ていた動き一つ一つがとてつもなく困難なものに変わってしまい本当に辛い思いをしました。立ち上がる、歩く、着替える、座る、どの動作にも痛みが伴いました。動かして痛くないのは口と目だけになり、熱も高く37度5分～39度を行ったりきたり、食欲も無く、ほとんど寝たきりのような毎日です。寝汗がすごくて夜中に4～5回着替える時も激痛が走りうめきながらでした。家事全般、お灸は主人と1年生の娘がやってくれました。漢方風呂は痛みが楽になり出来るだけ入りました。

春になり娘が2年生になる頃、少しずつ痛みが和らぎ家の中なら動けるようになり時には気分転換に外出しようという気持ちが出てきた事は、私にとって、あの激痛に耐えたご褒美のように思えたものです。松本医院へは2、3ヶ月に1回来院し、パワフルな松本先生とお話することでまたがんばろうという気持ちにさせていただきました。「わしと違う。あなたが治すんやで。」

2013年5月までCRPの値は順調に下がりましたが、9月にはMMP（マ

トリックスメタロプロティナーゼ)の値と共に跳ね上がりました。松本先生はいろいろ質問してくださり、それは私が過去に多くの鎮痛剤等の薬を服用してきた事が原因で異常な数値だということでした。ヘルペスの値も初めの頃から常に50以上(基準値2.0未満)で、左腕のピリピリとした症状やあごの痛みは今も続いています。検査のたび数値に一喜一憂しがちですが、これまでの悪いものが出てきている証拠だと思うと前向きに受け取ることが出来たのです。免疫力を上げるために、身体を温め、たくさん笑い、ストレスを感じないように嫌な事や無理なことをせず、のんびりとゆっくり過ごしました。

2013年12月に入ると、自分でも驚くくらい身体の痛みが和らぎ動けるようになってきたのです。簡単な食事を作れるようになったり、お風呂洗いが出来るようになったり、家事がすこしずつ出来るようになりました。嬉しくて動きすぎて疲れてしまうことも度々ありましたが、明らかに快復していることに家族も喜んでくれて、楽しい年末年始を過ごしました。

そして2014年1月の血液検査でCRPとMMPの数値がまだまだ基準値以上とはいえ、私には目を疑うほどの低い値となっていたのです。でもヘルペスの数値は高いままでした。松本先生も「ヘルペスや。戦ってるんや。」とおっしゃり、今もベルクスロンの服用を続けています。春になり一段と回復を実感し、階段も車の乗り降りも怖くなくなってきました。そして4月の血液検査の結果は夢のような数値でした。やっと憧れの基準値に!!!お電話で若先生は「すごい、下がってますね。そろそろ手記を書き始めてください。この2~3ヶ月で何か特別なことでもあったんですか?」とおっしゃいました。特別思い当たる節はありませんが、相変わらずのんびりと、よく笑いよく怒り、何より家族に感謝しながら過ごしていました。そして心待ちにしていた手記…。

2012年春から2014年7月現在までの2年余りリウマチと戦いながら様々なことに気づかされました。いつも寄り添って励ましてくれた家族、優しく施術してくださった鍼灸の先生方、穏やかに語りかけて下さった若先生、そして時には激しく時にはなだめるようにお話して下さった松本先生に頼りきってこれまで辛い症状も乗り越えてきました。本当に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。まだヘルペスのピリピリが残っていますので、これからもお世話になりますが、先生のお許しをいただきましたので、これまでの経過をまとめてみました。

私の拙い手記が、私がそうであったように、今リウマチと戦っておられる方々を少しでも励ますことが出来たら、嬉しく思います。

血液検査数値

2012/5/11	CRP 0.11	ヘルペス EIA 値	42.6	
2012/12/29	CRP 6.61	ヘルペス EIA 値	53.8	MMP 1671.0
2013/3/19	CRP 5.79	ヘルペス EIA 値	53.4	MMP 1907.6
2013/5/11	CRP 1.54	ヘルペス EIA 値	63.7	MMP 1374.1
2013/9/2	CRP 5.91	ヘルペス EIA 値	75.6	MMP 2529.4
2014/1/15	CRP 1.58	ヘルペス EIA 値	58.5	MMP 670.9
2014/4/23	CRP 0.05 以下	ヘルペス EIA 値	41.9	MMP 47.7